

# 令和7年度関東高等学校水泳競技大会水球競技【戦評】

会場: 埼玉県立大宮公園屋外水泳場【2025/7/21】

決勝戦		前橋商 13			明大中野 10		
5	—	1	—	2	2	3	—
2	—	—	3	3	—	—	3
3	—	—	3	—	—	12	47%
3	—	—	4	—	—	12	12
PSO							
田原忠雄 中村友美							
審判:							

## この試合のプレー集計

前橋商	34	SH数	31	明大中野
	3	速攻数	5	
	10	ST・SB	8	
	12	SH・P誘発アシスト	10	
	47%	GK阻止率	32%	
	12	EX反則数	7	
	ST・SB:ボール奪取・SH阻止			

## 【試合の流れ】

1ヵ月前の関東春季でも決勝戦を戦った両校。その際は、前橋商が試合巧者らしく第4ピリオドで逆転勝ち。春の潮風カップ以降の主要大会で全勝を続けている前橋商がどこまで伸ばして、インターハイ制覇に近づけるか。はたまた下級生が多い明大中野がストップをかけるか、楽しみな決勝戦。

### <1P>

センターボールからの明大中野攻撃で⑤吉岡が退水を誘発して④上柿が先制点をあげたが、スタートから前橋商が退水者を出す展開では、層の薄い前橋商側はパーソナルファウル数を積み重ねないよう、メンバーチェンジを頻繁に行わざるを得ないことが予想される。先制点を奪われた前橋商だが、逆に集中力が高まった感じで、攻撃リズム、守備陣形やボール接点プレーで明大中野を圧倒。カギを握る前橋商④齋藤が縦横無尽に泳ぎ、ペースを明大中野側に渡さないやや一方的な展開となった。前橋商はシュート10本で5得点、明大中野はシュート7本で(退水SH含む)1点。

### <2P>

このピリオドも前橋商④齋藤の動きが止まらない。センターバック位置で守ったかと思ったら、中央突破でそのままセンター位置でプレーするなど、マーク側を翻弄させる動き。ピリオド序盤、明大中野の退水攻撃も読み切ったように素早く飛び出し、その退水SHミスを突いてからのセンター位置で6点目をマークし、完全に前橋商ペースの試合展開となった(前橋商6-1明大中野)。こうなると、明大中野に点を取られても取り返す展開に持ち込めば試合の主導権を握れるわけで、退水者が出てもメンバーチェンジをするなどして落ち着いて試合を進められる状況になった。明大中野側としては、得点を狙うだけでなく、前橋商の手薄な選手層を狙う意味で、なるべく相手にパーソナルファウルを累積させるような攻撃展開に出るほかなく、シュートの早打ちは厳禁だ。明大中野②武田らはそうした状況を理解していて、前橋商中心選手を追い込むプレーが目立ってきた。このピリオドでは前橋商②関口がペナルティを含めて2ファウルに。前橋商側はメンバーチェンジを余儀なくされての攻防となった。そうした駆け引き的な展開となった第2ピリオドは双方2点ずつを取り合い、前橋商7-3明大中野で前半を折り返した。

### <3P>

常に先手を取っておきたい前橋商。明大中野のオーバータイムからの攻撃で、④齋藤がゴール前に位置する⑥前田を「おとり」のように動かし、その間隙を縫う形でミドルレンジからのバウンドSHを決めて5点差に広げた。このあと、余裕の前橋商は雑なプレーが目立ってきた。⑥前田がペナルティSHをミス、そのミスは第4ピリオドでも自身で奪ったペナルティ場面でシュートを他人に渡し、その選手もペナルティをミスするなど、チーム全体に緊張感が抜けてしまう展開となった。このピリオド、明大中野は⑤吉岡と②武田とで3点を返すが、最後にはまたしてもセンター⑥前田に決められ、点差を詰めることができずに第3ピリオド終了(前橋商10-6明大中野)。

### <4P>

明大中野はセンターボールから②武田がセンター位置で退水を誘発して、最後は自身がねじ込んで反撃開始。さらに前橋商コントラ反則から②武田が狙い撃ちした退水を誘発して③中野が決めて連続得点。これで2点差。さらに前橋商のペナルティSHミスから、②武田がセンター位置で渾身のシュートを決めて1点差(5:48 前橋商10-9明大中野)。ここでのDFが最重要となる場面。前橋商はゴール前勝負と見せかけ、トップ位置から⑤椎名が決めて突き放した。⑤椎名は前のプレー(ペナルティSH外し)を挽回した形だ。ここで2ファウルで待機していた④齋藤が機能し、センター⑥前田とのコンビネーションでさらに得点して3点差に広げた(4:35)。事実上、この時間帯での3点差で勝負あり。最終的には前橋商13-10明大中野で、前橋商が逃げ切って優勝を果たした。

この試合、前橋商ベンチのタイムアウト請求が屋外プールということで十分に伝わらず、試合運営上の課題もあった。また最後は集中力が切れた選手によるプレーもあるなど、選手側にも問題が残った試合となった。それでも今年になってからの前橋商の勝負強さは本物の域に入ってきたことを感じさせ、昨年のインターハイ初戦敗退を払拭して、11回目の全国制覇に向けてエンジン全開という状況と見ていいだろう。最終日の4校の山口インターハイでの躍進に期待し、願わくば、この4校でベスト4独占を果たしてもらいたいものだ。